

海外協力でシンポジウム

21世紀水倶楽部が施設協と共催



安藤座長（壇上左）と3氏によるシンポジウム

初の対外活動

NPO(特定非営利)法人「21世紀水倶楽部」(大泊健一理事長)は6日、東京都内で(財)日本下水道施設業協会(小島啓示会長)と共同でシンポジウム「下水道の海外技術協力―現場から」を開催した。発展途上国で海外協力事業を行う場合の参考に実施したもので、約100人が参加した。同倶楽部はさる5月に発足したが、ホームページによる情報提供を除き、初めての対外的活動となる。

シンポジウムはまず、中島英一郎・国土交通省国土技術政策総合研究所下水道研究室長が「熱帯地方に適した低コスト下水処理の方向」、鎌田寛子・日本工営(株)コンサルタント海外力開発部員が「タイにおける技術協力の課題」、上田恵一・前JICA(国際協力事業団)シニアボランティアが「ヨルダンにおける技術協力の状況と課題」について講演、その後、安藤茂・同倶楽部副理事長が座長となつて、3氏と座談会を行

った。3氏は、日本企業が海外協力事業を行う場合、「開発途上国は施設や維持管理についての記録がないことが多いので、人を育てることから必要で、気永に付き合っていかなければならない」「環境教育で人々の環境に対する意識を高める必要がある」「現地の実態に合った技術でないと、運転できなくなる」「諸外国も参入の機をうかがっているので、十分市場性を考えて取り組む必要がある」と述べた。